

私の読書歴

理事 事業企画室長・技術室長・大阪事業所長・技術開発センター担当 金丸 博



これまでの自分を顧みる時、本で楽しみ、癒され、救われ、成長させられたことを実感する。体育館や汗の匂いしか記憶

にない中学・高校時代から30代前半までのヒヨコ時代は、今なお愛読し続ける森川ジョージの名作劇画『はじめの一步』(講談社、2008年9月時点で85巻まで)等と共に、特定作家の推理小説やSF物、アクション・アドベンチャー物を手当たり次第、体力任せに読んでいたように思う。その後、内外の歴史物の割合が次第に増え、気が付けば今や推理小説やアクションヒーロー物は殆ど駆逐されてしまっている。一方、受験競争を何とか潜り抜けて大学へ入り、麻雀・将棋に没入することもなく、理系学問を一応6年間勉強した後、幸運にも某大手化学会社に入社でき、研究開発職のキャリアを積み始めると、最先端知識や輝かしい業績への渴望から専門書や論文、先達の本をガツガツと読み漁るようになり、その状態が50歳近くまで続いた。その後、当社SCASにお世話になることとなり、医薬事業の全体や全社を眺められるポジションに立たせていただけるようになると、自分に足りないものがまだまだ沢山あることを痛感し、これまで未体験だったビジネス書やハウ・ツー物、P.F.ドラッカーのような大家の書籍に自然とヒントや救いを求めるようになった。このような状況下で出会った数多くの本の中でも特に印象深く、また現在も折に触れて読み返すのが、GEのCEOを20年の長きに亘って務めたJ.ウエルチの著作『Winning - 勝利の経営』

(日本経済新聞社、斎藤聖美訳、2005年)である。この本の素晴らしいところは、「ミッション(経営理念)とバリュー(行動規範)」等、ベテラン経営者や優れたリーダーが読めば大いに共鳴すると推察される多くの箇所だけでなく、小生のような悩み多き凡人がありがたく思える啓示や示唆、明日からすぐ使えそうな優レモノのノウハウ(例えば「昇進する方法」とか「ダメな部下やいまいまいしい上司との付き合い方」等)も満載されていることである。また、この本の面白いところは、我々のような会社人間だけでなく、様々な業界の人達の共感も得られる点である。一例として、小生の2人の息子達(長男は若手教師、次男は情報科学専攻の大学院生)が自宅に転がっていたこの本を読み、自分達でも同じ本を買って手元に置くようになったことが挙げられるが、このことは、嬉しい驚きと共に、この本の摩訶不思議な魅力を小生に再認識させた。ただ、この本について纏々語り始めると紙面が著しく不足しそうなので、それは別の機会に譲ることとして、今回は、小冊子ながら、当社の現状とも重なり合って強いインパクトを受けた『日本人が最も尊敬する経営者 松下幸之助』(別冊宝島、2006年)について、残り紙面を使って述べたいと思う。

皆様も良くご存知の通り、松下幸之助氏は日本を代表するグローバル企業M電器産業の創業者である。彼は、学歴にも体力にも恵まれず、9歳での丁稚奉公からスタートしたが、二股ソケット、ナショナルランプ等の発明・販売でその才能と努力を開花させ、その後持ち前の才気と誠実さ、そして揺ぎ無いポリシー「水道理論」に拠って立ち、時代の激変に蹂躪されることなくM社業容を飛躍的に拡大して、「経営の

神様」と敬愛されるに至った。その幸之助氏が、独立採算と自主責任の画期的経営体制「事業部制」を我が国初で導入し、M社大飛躍の礎を築いたのは遥か昔1933年のことであった。それから約70年後の2000年、M社社長に就任したNK氏は、その事業部制がいつの間にかセクショナリズムの温床と化してM社の更なる成長を阻害していることを喝破し、破壊者と揶揄されながらも大胆な社内改革を断行して、どん底にあったM社業績をV字回復させた。現在会長職にあるNK氏は、この折、密かに幸之助氏の著作を座右に置き、「創業者と同行二人」の心構えで、この凄まじい改革を推し進めたそうである。そして、2008年10月、M社はその名をグローバルブランドPと改め、次なる大飛躍へのスタートを切った。

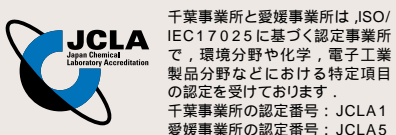
さて、創業から36年目を迎え、従業員総数1400名もの規模となったSCASの現状を思う時、これまでの諸先輩方の誇るべき業績成果と後進育成努力に感謝せずにはいられない。小生にも、敬愛する大先輩からメール送信いただいた『ニルスの不思議な旅』(S.ラーゲルリョープ作)中のフレーズ“ We can fly high, if we really want to.”に何度も勇気づけられた経験がある。そして2008年6月、当社は5事業部制への移行を決断し、コーポレート機能も大幅強化して更なる飛躍へ備えたところである。今後は、事業部制の長所を最大活用して業容を順調に拡大し、加えて「ヒトづくりのSCAS」という新ブランドも築けるよう、微力を尽くしていきたいと考えている。また、M社と同様に、数十年後のSCASにおいて古色蒼然となった事業部制の廃止を後輩達が決心し、斬新な経営手法を編み出して次なる飛躍を期す姿も夢想している。

編 集 後 記

SCAS NEWS 2009- 号をお届けいたします。今回は、医薬をテーマとして巻頭言に、東京慈恵会医科大学薬物治療学教授、景山茂先生に「決定論と確率論」と題して、種々示唆に富む提言を賜りました。また東京大学医科学研究所ヒト疾患モデル研究センター遺伝子機能研究分野教授、吉田進昭先生には「ES細胞、iPS細胞研究の現状と、再生医療に

向けた展望」について最近の話題やトピックスについてご紹介いただきました。その他、関連テーマの技術報告、SCAS NOW、トピックス、法律ウオッチャー等もご紹介させていただきました。今後も、お客様のご期待に応えられるよう当社の最新分析技術情報を提供してまいりますので、ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。 M.S

編集・発行 株式会社住化分析センター 発行日 2009.2.23 2009- (通巻29号)
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-17 TEL06-6202-1807 FAX06-6202-0116
ホームページ <http://www.scas.co.jp> E-mail: webmaster@scas.co.jp



千葉事業所と愛媛事業所は、ISO/IEC17025に基づく認定事業所で、環境分野や化学、電子工業製品分野などにおける特定項目の認定を受けております。
千葉事業所の認定番号: JCLA1
愛媛事業所の認定番号: JCLA5

当社事業所はISO9001およびISO14001の審査登録も受けています。

- 千葉・筑波事業所: JQA-1105 / O1ER-171
- 大阪・岡山事業所: JQA-1814
- 愛媛事業所: JCQA-0253 / JCQA-E-0465
- 大分事業所: JQA-QM3707 / JQA-EM2093
- ファーマ事業所: 医薬品GLP
- 大阪事業所: 農業GLP

はインシュタインの疑問符です。彼のあくなき好奇心と探求心こそが、宇宙真理発見の原動力だったのかも知れません。

SCAS Sumika Chemical Analysis Service

- | | | | |
|----------------|------------------|------------------------|---------------------|
| 東京営業所(本館) | TEL 03-3257-7201 | 大分営業部・大分事業所 | TEL 097-523-1181 |
| 東京営業所(別館) | TEL 03-5259-5961 | 大阪事業所 | TEL 06-6466-5247 |
| 大阪営業所 | TEL 06-6202-1000 | 筑波事業所 | TEL 029-864-4741 |
| 名古屋営業所 | TEL 052-952-8969 | 医薬事業本部 ファーマ事業所 | TEL 06-6466-6426 |
| 医薬事業本部 営業部(東京) | TEL 03-5259-5964 | 技術開発センター | TEL 0438-63-6176 |
| 医薬事業本部 営業部(大阪) | TEL 06-6202-1801 | 医薬事業本部 バイオ技術センター | TEL 06-6466-5251 |
| 千葉営業部・千葉事業所 | TEL 0438-64-2281 | SCAS SINGAPORE PTE LTD | TEL 65-6899-3819 |
| 岡山営業部・岡山事業所 | TEL 086-477-8103 | 住化分析技術(上海)有限公司 | TEL 86-21-5677-8181 |
| 愛媛営業部・愛媛事業所 | TEL 0897-32-3411 | SCAS Europe S.A./N.V. | TEL 32-2-255-76-73 |